



中澤議員

問 木質バイオマス事業の課題について問う

質問 私は、町当局が導入を検討している木質バイオマスエネルギー循環モデル事業の、基本的課題について伺います。

環境問題と合わせて林業、他産業の振興を図る

として、原材料の調達、ペレット製造流通過程を通して見た場合、林産業の振興波及効果も期待しにくい。又事業主体となるべき森林組合はどのように考えているか？

町長 木質バイオエネルギー循環モデル事業については、現在検討中ですので、明確な回答とはいきませんが、検討課題基本的な認識等について回答します。

現状認識について地球温暖化問題は、次世代に豊かな資源と、美しい環

境に恵まれた地球を残し、総業(株) 森林組合、県、町でバイオコスト部会を開いていく為に、人類が早急に取り組まなければならぬ重要な問題です。限りある資源を有効活用する循環型社会へ移行していくことが、強く求められております。

こうした状況の中町も、森林資源からバイオマス燃料を生産し、燃料を消費する循環システムを構築する目的で、事業を導入したく検討を行っています。課題に対する対応状況ですが、原材料の確保、建設主体、運営主体、建設予定地、原材料の搬入補助、収集及び流通フロー、ペレット製造原価試算、収支見込等を検討試算を行ってまい

ます。ペレット出荷価格は、おおむね20円以下、年間1、500tも生産が必

要と考えられます。矢崎

の場合、より有利な補助金を選択していきたいと考えています。

質問 原材料の調達に当って、長期的にかつ安定的に可能か？見通しは？

町長 原材料の調達については、林家から約250t、ボランティアからの収集30t、製材所等の端材1520tなど、年間1800tの購入を計画しています。

将来にわたって安定的な原材料の確保が、重要な課題となっております。

質問 矢崎総業の引き取り以外の、ペレット需要

について？

町長 ペレット生産のうち、矢崎総業が1,100t引き取る計画です。残りの400tについては、地域循環システム構築の為に町内公共施設での利用を検討しています。

対象施設は、ボイラーでは白沢温泉森の泉、B&G海洋センター、寸又峡露天風呂、福祉センターフットバス等が調査中で、これ等を補助金を利用しながら、順次設置し、これらで400tの需要が見込まれます。

答

課題克服に検討中

